

＜日商簿記１級商業簿記ミニテスト 21＞連結会計

次の資料にもとづき、P社の当期（平成31年4月1日から令和2年3月31日）における連結修正仕訳（開始仕訳を含む）を行いなさい。

[資料1] 解答上の注意事項

(1) のれんは発生年度の翌年度から20年間で均等額を償却する。

[資料2] 支配獲得日の資料

- (1) P社は平成30年3月31日にS社の株式70株（発行済株式総数100株）を@20円で取得し、支配を獲得した。
- (2) 平成30年3月31日（支配獲得時）のS社の個別財務諸表は次のとおりである。

S社の個別貸借対照表			
平成30年3月31日		(単位：円)	
諸資産	3,000	諸負債	1,200
/		資本金	1,000
		利益剰余金	800
	3,000		3,000

[資料3] 連結第1年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日）の資料

- (1) 平成31年3月31日（連結第1年度）のS社の個別財務諸表は次のとおりである。

S社の個別貸借対照表			
平成31年3月31日		(単位：円)	
諸資産	3,500	諸負債	1,400
/		資本金	1,000
		利益剰余金	1,100
	3,500		3,500

- (2) S社の連結第1年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日）の当期純利益は600円であり、配当額は300円であった。

[資料 4] 当期（平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日）の資料

- (1) 当期において、S 社の当期純利益は 700 円であり、S 社は 350 円の配当を行った。
- (2) 当期より P 社は S 社に対し、原価に 20%の利益を加算して商品を販売しており、当期において、P 社は S 社に対して商品 3,600 円を販売している。
- (3) 令和 2 年 3 月 31 日に S 社が保有する期末商品のうち、P 社からの仕入分は 360 円であった。
- (4) P 社は売掛金に対して 4%の貸倒引当金を差額補充法により設定しており、売掛金の期末残高のうち 450 円は S 社に対するものであった。

①開始仕訳

科目	金額	科目	金額
資本金当期首残高	1,000	S 株	1,400
利益剰余金当期首残高	904	非支配株主持分	630
のれん	126		

②子会社利益の振替

科目	金額	科目	金額
非支配株主に帰属する 当期純利益	210	非支配株主持分当期 変動額	210

③子会社の配当金の修正

科目	金額	科目	金額
受取配当金	490	剰余金の配当	700
非支配株主持分当期変 動額	210		

④のれんの償却

科目	金額	科目	金額
のれん償却	14	のれん	14

⑤売上と売上原価の相殺消去

科目	金額	科目	金額
売上高	3,600	売上原価	3,600

⑥期末商品に含まれる未実現利益の消去

科目	金額	科目	金額
売上原価	60	商品	60

⑦債権債務の消去と、それに関連する修正

科目	金額	科目	金額
買掛金	450	売掛金	450
貸倒引当金	18	貸倒引当金繰入額	18